

本との出会いを楽しむ

第 32 回 先輩達の本棚

佐藤伶奈

宮城県仙台市出身。宮城県宮城野
高校卒業。2021 年弘前大学人文
社会科学部文化創生課程入学。
2023 年度附属図書館アルバイト。



今回で第 32 回となる連載企画「本との出会いを楽しむ」。毎回、弘前大学にゆかりのある教職員、学生、卒業生の方々に、お気に入りの本を紹介していただいています。

生を考える

私にとって本は、一時でも不安を和らげてくれる存在です。特にファンタジー小説は何かの手掛かりや体験をもたらしてくれます。

私の心に残っているその一つが『ゲド戦記』です。これは魔法使いが魔法を一助にしながら世界を旅する物語です。読んでいると、私は鳥のような目線で旅路を追ったり一緒に旅をしたりしているようなわくわくした気持ちになります。魔法のある世界は現実とはかけ離れたものを感じるかもしれません。ですが、その世界で人々は惑い、失敗をするたびに葛藤や対話を繰り返します。そして、彼らは何かを培っていきます。このような姿は現実の私たちの世界にも通じるものがあると私は感じます。彼らの姿や培ったものから私は生きるヒントや新たな考え方を知ることができました。読書は忙しい日常から私を一旦遠ざける時間であると同時に、私自身と対峙する時間でもあります。

魔法使いは何を求めて旅をしているのかかみどころがありません。自身もその何かをはっきりとは認識できていないと思います。それでも、手元にあるものと思いを頼りに、時に身を委ね、

恐れながら、より確からしいと思う方向へと旅をします。私はこの魔法使いの姿が、誰もが危機に陥る可能性のある現実の私たちが迷いながらも、確固たる自己や何かを求めて前へ進もうとする姿と重なりました。人間や世界を俯瞰することができた作品です。

私自身と対峙するきっかけを与えてくれたもう一つの作品が、『恋せぬふたり』です。これはアロマンティックとアセクシュアルの二つの指向をもつ二人の人物の生活を描いています。身の回りの「普通」に翻弄される困難が言葉にされており、私がぼんやりと抱いていたセクシュアリティの疑問の輪郭を明確にすることができました。

そして、私は<今>自分が生きる上で大切にしたいものや価値観は何かを考える視座をもつことができました。私は自分がどう生きるかという問いを考えることが増えました。そこで何も答えを出せず、将来に希望を見出せずにいました。しかし、この作品から私は、人生は一回の選択で決まるもの、決めなければならないものではなく、都度変わりうるものだということに気づかされました。作中では、ある一人が過去の選択の結果得られた今の人生に満足していたつもりが、現在は自分の内

今回は、弘大図書館での勤務経験がある先輩方に、お気に入りの本を教えていただきました。今までにご紹介いただいた本と合わせて、皆さんの本との出会いの一助となれますように……

にそれとは異なる、新たな人生を生きたいという希望があることを自覚させられます。そして、葛藤の末新たな人生を生きる選択をします。将来への漠然とした不安は今も変わりませんが、この作品を読んだことで自分の<今>の気持ちに正直になって生きることが未来へとつながるといふ前向きな考え方も頭の片隅におくことができている。

(さとう れいな)

「恋せぬふたり」
吉田恵里香 著

913.6
Y86k

企画展示コーナー(本館 2F)

文屋慎太郎

宮城県仙台市出身。令和4年弘前大学農学生命科学部食料資源学科入学。写真と旅行が趣味で、暇さえあれば旅行の算段を考えているごく普通の大学生。



読書が人生の深みをつくる

先日、青森県立美術館を訪れた際にとあるコーナーを見つけました。それは「あなたにとって“豊かさ”とは？」という質問に対して、地元の方々が普段の朝ご飯の写真と併せて回答するというものです。みなさん“豊かさ”について真剣に考えており「健康でいること」や「家族と一緒に生活すること」など様々な回答がありました。私も“豊かさ”について弘前に帰る電車の中でずっと考えていたのですが、行き着いた答えは「当たり前の日々を幸せに感じるこ」とでした。我々が普段から経験する様々な出会いや出来事を幸福に感じるこ、それこそが心の“豊かさ”なのだと思います。

豊かさを追求するには読書は必須です。私にとっての読書とは新たな世界を開拓することと考えています。本は人生の羅針盤です。読書は自分を成長させるのです、と述べてみたものの私は大学生になってから読書の大切さを知りました。『読書する人だけがたどり着ける場所』には読書をする習慣の重要性を著者が丁寧に説いています。読書の指南書にピッタリの一冊です。また、文中で紹介される書

籍は図書館にあるものも多いので、気になった本は読んでみるのも良いかと思います。

考え方の可変性も豊かさに繋がります。学びや活動を通して考え方を常に変えていく柔軟さが人生を楽しくする一つの方法だと思います。考え方の違いを知ることの面白さは『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』を読むと分かりやすいと思います。この本はタイトルにある通り「いかにしてドーナツの穴だけ残して食べるか」について様々な分野の研究者が真剣に答えを見つけていくという内容になっています。一つの事柄に対して様々な方面から考察する、これは日常生活にも生きてくる考え方です。何かに行き詰まった時に誰かと話をするこで今までになかった視点を発見することができ、すんなりと解決するこということもよくあるこです。

多くの人は物事に不満があるときに、他者や社会といった周囲を変えようと努力しますがります。不満は幸せと少し離れた場所にあるものです。周囲を変えるこは莫大なエネルギーを必要とします。そのため、多くの場合は周りを変える前に自身が折れ、結局は不満が溜まったままの生活を過ごします。不満だ

過去の「本との出会いを楽しむ」

第23回 社長の本棚

[虚数の情緒：中学生からの全方位独学法](#)

[ゲーデル、エッシャー、バッハ：あるいは不思議の環](#)

第24回 先輩の本棚

[論理哲学論考](#)

[語りえぬものを語る](#)

[宇宙が始まる前には何があったのか](#)

第25回 教師の本棚

[12の贈り物 世界でたったひとりの大切なあなたへ](#)

第26回 学長の本棚

[君たちはどう生きるか](#)

第27回 珈琲研究会の本棚

[コンビニ人間](#)

[正欲](#)

第28回 公認会計士の本棚

[MG から生まれた戦略会計マニュアル](#)

第29回 看護師の本棚

[ベナー看護実践における専門性：達人になるための思考と行動](#)

第30回 図書館長の本棚

[指輪物語](#)

第31回 編集長の本棚

[こころの旅](#)

らけの生活の先には空虚な生活、あるいは常に文句が漏れ出ている自分が待ち構えています。絶対にそんな生活は楽しくないです。私は物事に不満が生じた際には「自分が変わる」とが大事だと思います。変化には良書が付きものです。本と出会い続けることで、いつか自分を変えてくれる本に出会おうと思います。そういった運命的な本は心を“豊か”にしてくれることでしょう。

(ぶんや しんたろう)

「読書する人だけがたどり着ける場所」

齋藤孝 著

019
Sa25d

開架図書(本館 2F)

「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」

大阪大学ショセキ
カプロジェクト編

002
D85

開架図書(本館 2F)

過去の豊泉は附属図書館ウェブサイトで公開しています。

<https://ul.hirosaki-u.ac.jp/about/publications/hosen/>